

6 大和町の食をめぐる現状

視点1 食習慣と健康

重点項目：規則正しい生活リズムを整える

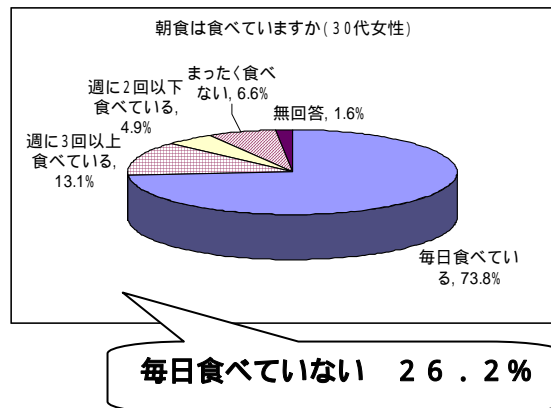
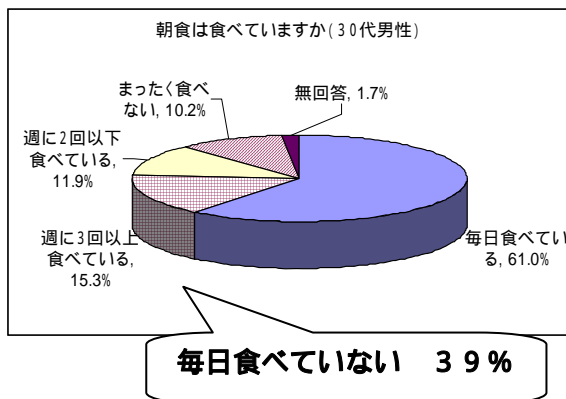


朝食の摂取状況

朝食を毎日食べない人の割合（平成19年度大和町健康意識調査結果より）

大和町では、朝食を食べていない人の割合は、全国や県と比べて男女とも高い。年代別でみると男女とも30代が最も高く、特に30代、40代の男性は3割の人が朝食を食べていないという状況である。

年齢	国(17年)		大和町(19年度)	
	男	女	男	女
30代	27.0%	15.0%	39.0%	26.2%
40代	16.2%	10.3%	35.9%	23.0%
50代	11.7%	8.3%	12.7%	18.8%
60代	5.6%	5.5%	14.6%	5.4%



朝食をとらない理由

「時間がない」と答えた人が34.7%と最も多い。

年代別で最も多い答えは、30代と50代では「時間がない」、40代では「食欲がない」、60代では「時間がない」「食べる習慣がない」であり、年代で理由が異なっている。

男性で最も多い理由は「時間がない」で35.7%、女性では「時間がない」「食欲がない」で33.3%であり、女性では「食事量を減らす」という理由が男性に比べ多かった。

小中学生の朝食の欠食状況（平成20年度給食アンケート調査結果より）

	国(平成17年度)		町(平成20年度)	
	小学生(5年生)	中学生(2年生)	小学生(5年生)	中学生(2年生)
食べないことがある	14.7%	19.5%	14.7%	12.3%
ほとんど食べない	3.5%	5.2%	1.1%	1.4%

朝食をとらない理由

「時間がない」と答えた人が最も多く、小学5年生で53.3%、中学2年生で72.7%である。次に多い答えが「食べたくなかったから」と答えた人は、小学5年生で46.7%、中学2年生で27.3%となっている。

視点1 食習慣と健康

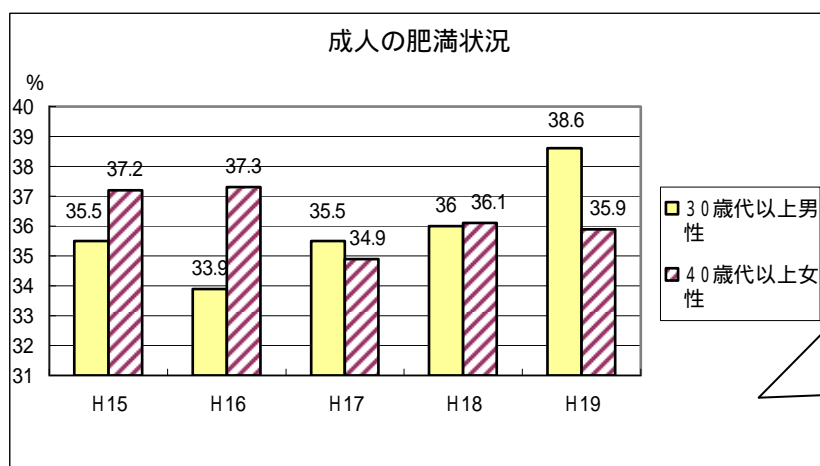
重点項目：肥満を予防し生涯を通じて適正体重の維持

1、肥満の状況

	県の現状値 (H17)	町の現状値 (H19)
30歳代以上 男性	31.0%	38.6%
40歳以上 女性	32.2%	35.9%

成人の肥満状況（基本健康診査の結果より）

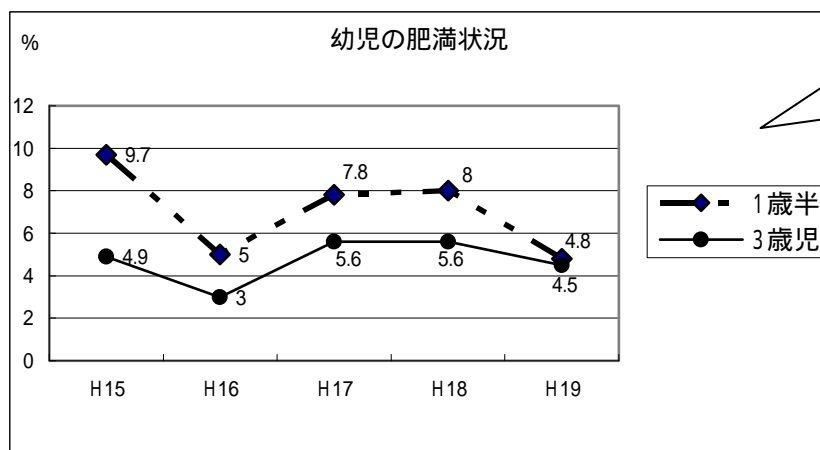
	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
30歳以上男性	35.5%	33.9%	35.5%	36.0%	38.6%
40歳以上女性	37.2%	37.3%	34.9%	36.1%	35.9%



県の肥満の状況も3割をこえているが、町の肥満の状況も県より高い割合である。
とくに男性の肥満者が目立ち30代という年代から増加している。

幼児の肥満状況（1歳半健診、3歳児健診より）

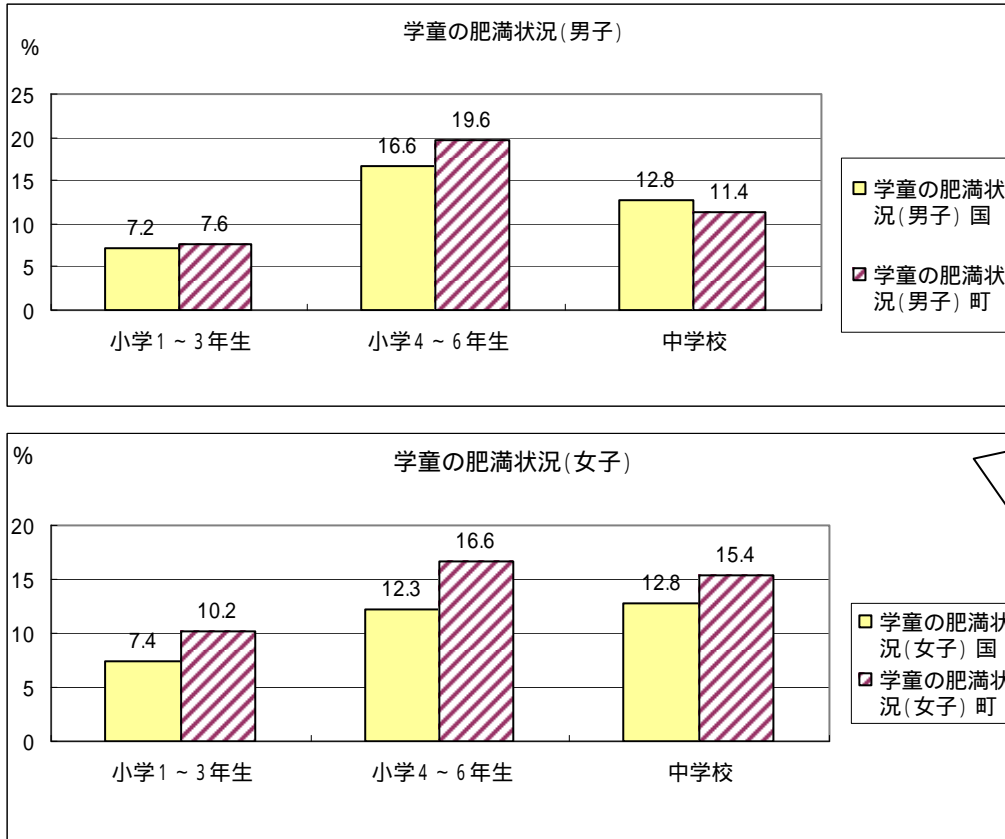
年齢	区分	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
1歳	太りすぎ(20~)	0.4%	4.0%	1.0%	0%	0%
	太りすぎ(18~)	9.3%	1.0%	6.8%	8%	4.8%
3歳	太りすぎ(20~)	1.8%	1.0%	1.7%	1.7%	1.0%
	太りすぎ(18~)	3.1%	2.0%	3.9%	3.9%	3.5%



健診受診者全体における肥満児の割合は減少傾向にある。



学童の肥満状況（小中学校の状況より）



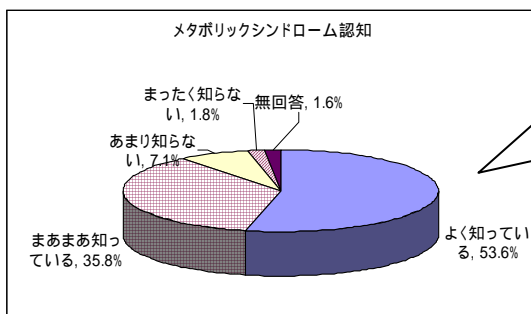
小学生の肥満該当者は男女とも全国平均を上回っている。

中学生の肥満該当者は女子が全国平均を上回っている。

町内の学校はローレル指数か肥満度による報告をしているため、全国の値（H17 国民健康・栄養調査）と比較できる肥満度による報告データを用いて比較している。

2、メタボリックシンドロームを知っている人（平成19年度大和町健康意識調査結果より）

県の現状値（H18）	町の現状値（H19）
49.5%	89.4%（男性85.5%・女性93.1%）



よく・まあまあ知っている人

89.4%（男性85.5%、女性93.1%）

最も多かったのは40代女性で97.3%、50代女性で94.2%、一方最も少ないのは50代男性で79.3%であった。

3、メタボリックシンドローム該当者と食べる速度の関係（平成20年度特定健診結果より）

	男性	女性
メタボリックシンドローム該当者で早食いの方	33.3%	28.2%
メタボリックシンドローム非該当者で早食いの人	23.2%	19.1%

メタボリックシンドローム該当者は食べる速度が速い人に多いという傾向がみられた。

視点1 食習慣と健康

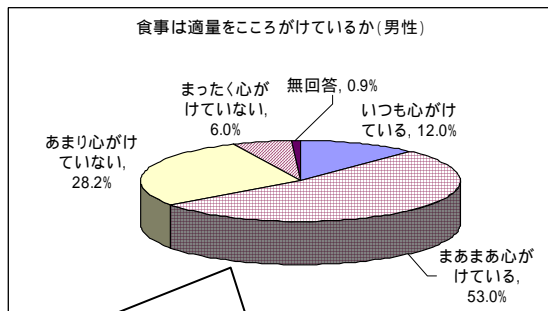
重点項目：ライフステージにおける望ましい食習慣や知識を習得した健康づくり

望ましい食習慣や知識の習得状況

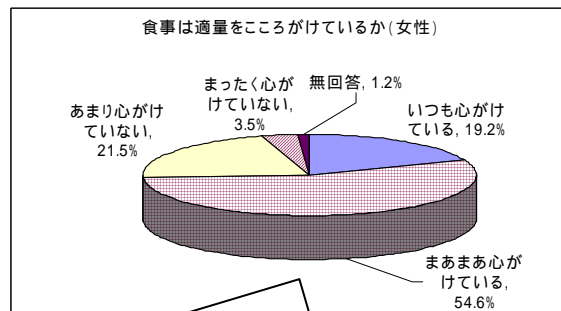
食事の量は適量（腹八分目）をこころがけている人の状況

（平成19年度大和町健康意識調査結果より）

県の現状値（H17）	町の現状値（H19）
78.9%	69.9%（男性65%・女性73.8%）



いつも・まああまこころがけている
65% 年代が高くなるにつれて心がけている人が多い



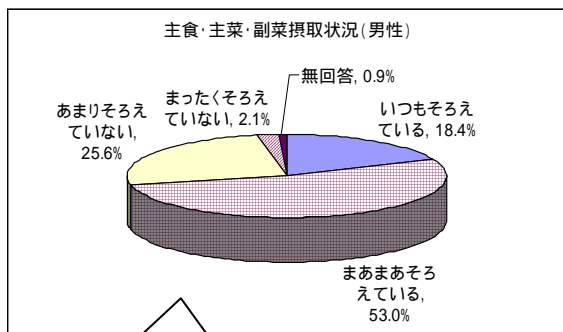
いつも・まああまこころがけている
73.8% 年代が高くなるにつれて心がけている人が多い

年代別にみても、「いつもこころがけている」、「まああまこころがけている」と答えた人が最も多いのは60代女性で83.9%、ついで多いのは50代女性。

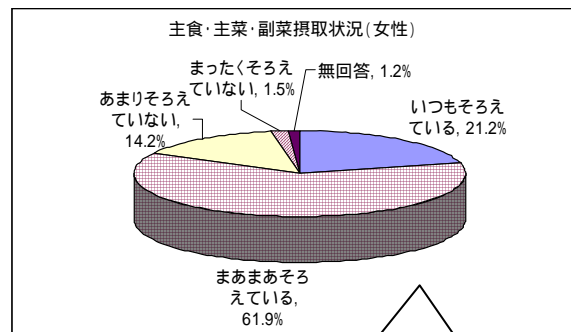
主食・主菜・副菜をそろえて食べるようにしている人の状況

（平成19年度大和町健康意識調査結果より）

県の現状値（H17）	町の現状値（H19）
62.7%	77.5%（男性71.4%・女性83.1%）



いつも・まああまそろえている
71.4%

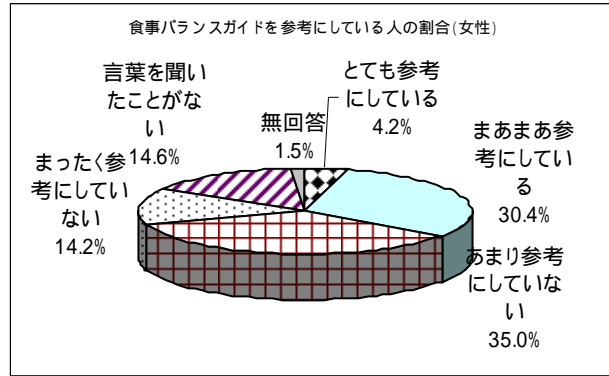
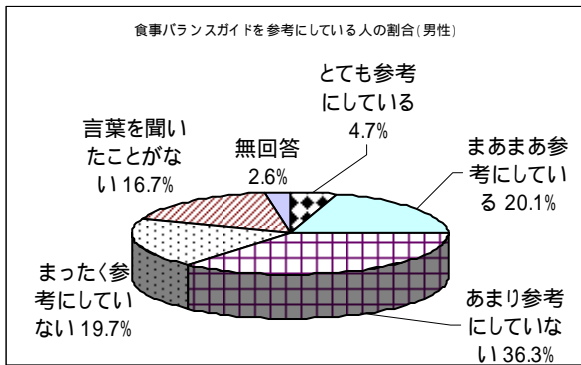


いつも・まああまそろえている
83.1%

食事バランスガイドを参考に食事を作ったり、食べたりしている状況

(平成19年度大和町健康意識調査結果より)

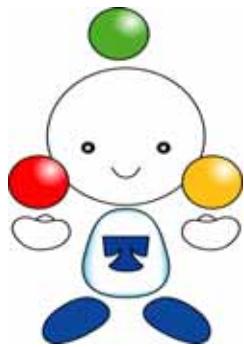
国の現状値 (H17)	町の現状値 (H19)
58.8%	30% (男性24.8%・女性34.6%)



全体でみると、「とても参考にしていてる」・「まあまあ参考にしていてる」が30%、「言葉を聞いたことがない」と答えた人が15.6%である。
年代別にみると、参考にしている割合が最も多いのが60代で41.4%、最も少ないのが30代で19.1%と、年代が高くなると参考にしている人の割合が多くなっていった。

とても・まあまあ参考にしていてる 24.8%

とても・まあまあ参考にしていてる 34.6%



健康たいわ21プラン
イメージキャラクター

<作品について>
持っている玉は「赤の食べ物」と「緑の食べ物」と「黄色の食べ物」を表し、「食べ物での健康」を意味しています。そして体は「町」顔は「人」を表しています。

視点1 食習慣と健康

重点項目：栄養バランスのすぐれた日本型食生活の実践

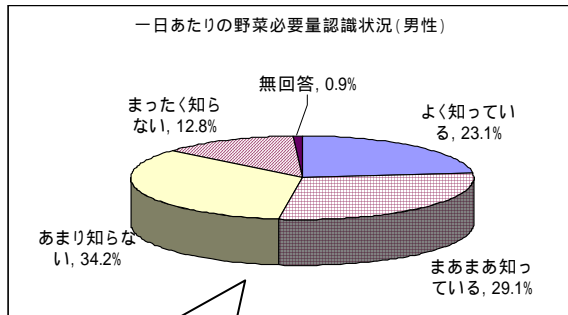


野菜の摂取状況

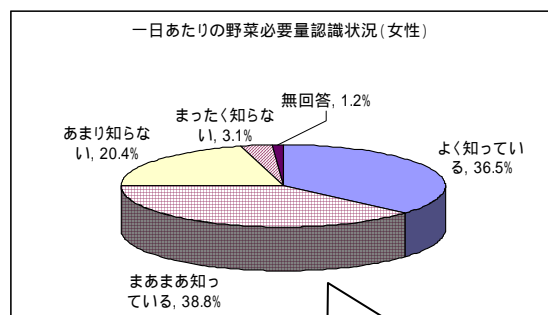
一日当たりの野菜摂取の目安量（350g以上）をよく知っている人の状況

県の現状値（H17）	町の現状値（H19）
42.2%	30.2%（男性23.1%・女性36.5%）

（平成19年度大和町健康意識調査結果より）



**よく・まあまあ知っている
52.2%**



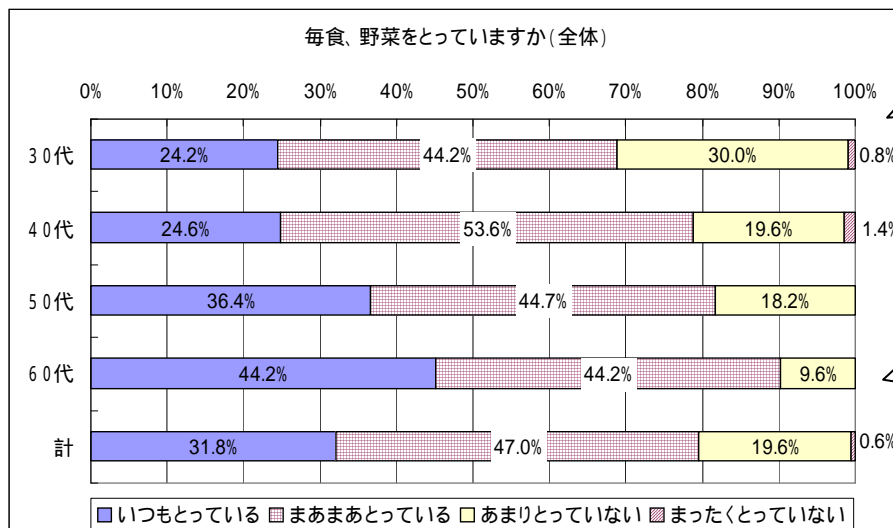
**よく・まあまあ知っている
75.3%**

全体で30.2%の人が「よく知っている」と答え、「よく知っている」・「まあまあ知っている」と答えた人は64.4%である。年代別でみると60代で39.4%、最も少ないのは30代で20.0%である。全年代において女性のほうが男性に比べて知っている割合が多い。

毎食野菜を欠かさない人（平成19年度大和町健康意識調査結果より）

町の現状値（H15）	町の現状値（H19）
33.8%	31.8%（男性29.5%・女性33.8%）

平成15年度と比べて野菜を欠かさない人が減少している。



野菜摂取の低い年代は30代、40代で3割にも達していない。

野菜摂取の高い年代は60代であり、女性は50.0%、男性は37.5%である。

視点1 食習慣と健康

重点項目：口腔衛生の向上



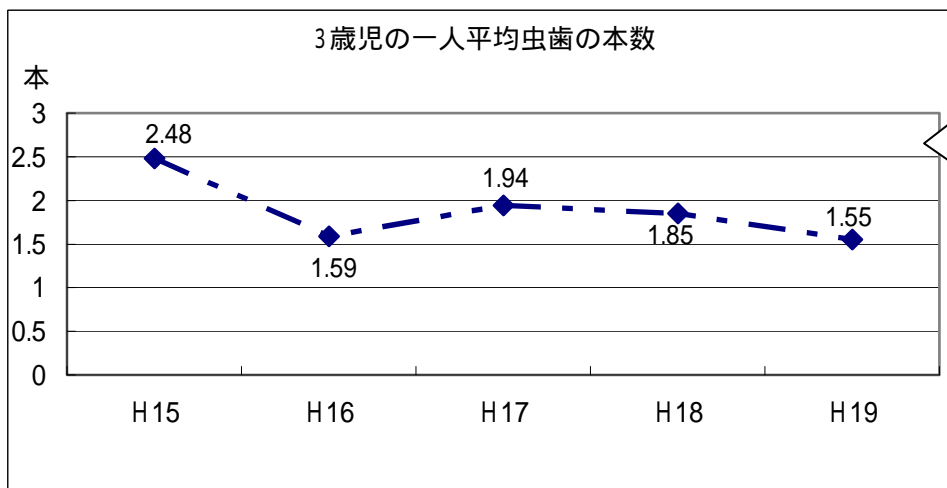
歯科保健の状況

3歳児の一人平均虫歯の本数（3歳児健診結果より）

国の現状値（H18）	県の現状値（H19）	町の現状値（H19）
1.06本	1.63本	1.55本

3歳児の一人平均虫歯の本数（3歳児健診結果より）

年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
虫歯（本）	2.48本	1.59本	1.94本	1.85本	1.55本



町年次推移としては一人平均虫歯本数は減少し改善している。

全国平均と比較するとまだ高い状態が続いており、改善が必要。

「8020賞」で表彰される人（累計）

年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
表彰者（累計）	29人	38人	43人	48人	51人

8020賞とは

80歳になっても健康で20本以上の健康な自分の歯を持っていることです。

視点2 食の由来と食文化の継承

重点項目：生涯をとおして食文化にふれる郷土料理の継承

郷土料理の継承活動の状況

「伝えたい大和の味 たべてけさいん」の出版数と出庫数

	平成19年度	平成20年度
出版数	2,030部	1,000部(H21・1月に増刷)
出庫数	1,951部	94部(4~12月の状況)

「伝えたい大和の味 たべてけさいん」とは...

大和町の食文化を再認識し後世に伝承していくことを目的に作られた、伝統料理と郷土料理を中心に紹介した本。(平成19年3月初版)

平成18年度に大和町食生活改善推進員の中より“大和町郷土料理と食文化編集委員会”を立ち上げ、編集委員が中心となり町内の各地区に出向き年中行事や行事食、由来などの聞き取り調査から本作りをスタートさせた。

伝統料理・郷土料理だけではなく、伝統料理をアレンジした料理、食べてほしいおすすめ料理やだしのとり方、野菜の切り方など食育を意識した内容も取り入れられており、幅広い世代の方々に求めていただき好評を得ている。「説明がわかりやすく作りやすい」「嫁ぐ娘に持たせたい」「おせち料理の参考に」「懐かしい料理がのっていて昔を思い出した」など、たくさんのコメントが寄せられている。

親子料理教室の状況

年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
実施回数	9回	8回	7回
参加者	282人	112人	82人



視点3 自然への恩恵等の感謝、環境の調和

重点項目：体験をとおして食を大切に作る心を育む

1 農業体験学習等実施状況

項目	県の現状値	町の現状値（H19）
農業体験学習に取り組む小・中学校の割合 （教育ファームに取り組む小・中学校の割合）	68% （ ）	75% （62.5%）

保育所・幼稚園

平成20年度

	保育所（2箇所）	町内の幼稚園（2箇所）
教育ファーム	100%（2箇所実施）	50%（1箇所実施）

小学校・中学校

平成20年度

	小学校（6校）	中学校（2校）
農業体験学習	5校（吉岡、宮床、小野、吉田、鶴巣）	1校（宮床）
教育ファーム	5校（宮床、小野、吉田、鶴巣、落合）	0校

教育ファームとは...

自然の恩恵や食に関わる人々の様々な活動への理解を深めるなどを目的として、農林漁業者などが一連の農作業等の体験の機会を提供する取り組みのことです。

一連の農作業等の体験とは、農林漁業など実際に業を営んでいる者による指導を受けて、同一作物について2つ以上の作業を年間2日間以上行うものとしています。



2 宮床ふれあい農園利用状況（全68区画）

	平成18年度	平成19年度	平成20年度
利用区画数	63	61	68
利用率(%)	92.6	89.7	100.0

視点3 自然への恩恵等の感謝、環境の調和

重点項目：地産地消の推進

地産地消の状況

大和町の学校給食での地場産品の使用品目数（黒川郡内）

年度	品目	品 目 内 訳		
		野菜類	きのこ類	魚類
平成16年度	3	トマト	椎茸・舞茸	
平成17年度	4	トマト・きゅうり	椎茸・舞茸	
平成18年度	6	トマト・きゅうり・パセリ・白菜	椎茸・舞茸	
平成19年度	8	トマト・きゅうり・パセリ・白菜	椎茸・舞茸 なめこ	岩魚

完全給食実施校のうち米飯給食を週3回以上実施する小中学校の割合

全国平均（H.16）	県の現状値（H.16）	町の現状値（H.20）
21%	73.0%	100%

農産物販売所施設や体験交流施設等の増加

県の現状値（H.16）	町の現状値（H19）
126箇所	4箇所

環境保全米づくりの取り組み状況

	水稻作付面積 (ha)	うち環境保全米 作付面積(ha)	環境保全米 作付割合(%)
平成19年産	1,563.9	150.2	9.6
平成20年産	1,514.7	294.4	19.4



環境保全米とは

環境に負担をかけないように農薬や化学肥料を減らし愛情を込め、健康を考え大切に栽培したお米です。

視点3 自然への恩恵等感謝、環境の調和

重点項目：食品の廃棄物の発生抑制と食品リサイクルの推進



食品の廃棄物の発生抑制と食品リサイクルの状況

学校給食センターの状況

a 残食率の状況

区 分	平成 18 年度		平成 19 年度	
	小学校	中学校	小学校	中学校
主食(ご飯,パン,)	18.4%	16.2%	17.8%	17.7%
主采(肉,魚,卵,大豆料理)	18.0%	11.7%	16.3%	11.2%
副菜(野菜,,いも,海藻料理)	26.8%	23.6%	25.0%	22.5%
汁物(みそ汁,スープ,うどん)	24.9%	21.4%	21.8%	20.2%
平均	22.1%	18.8%	20.1%	18.6%

b 厨芥類の処理状況

野菜の切りくず及び脱水した残食の厨芥類については、専門業者に処分を委託し、飼料や肥料にリサイクルした。

単位：kg

年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度
処理量	23,502	24,081	23,983

c 廃食油の処理状況

揚物に使用して不要になった廃食油については、専門業者へ売却処分を行った。

単位：缶(18)

年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度
処理量	375	347	235

生ごみ処理機補助台数

年 度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
処理機	20	20	15	15	8	7	7
コンポスト				1	15	15	5

視点4 食品の安心・安全

重点項目：食品の安全性の情報提供

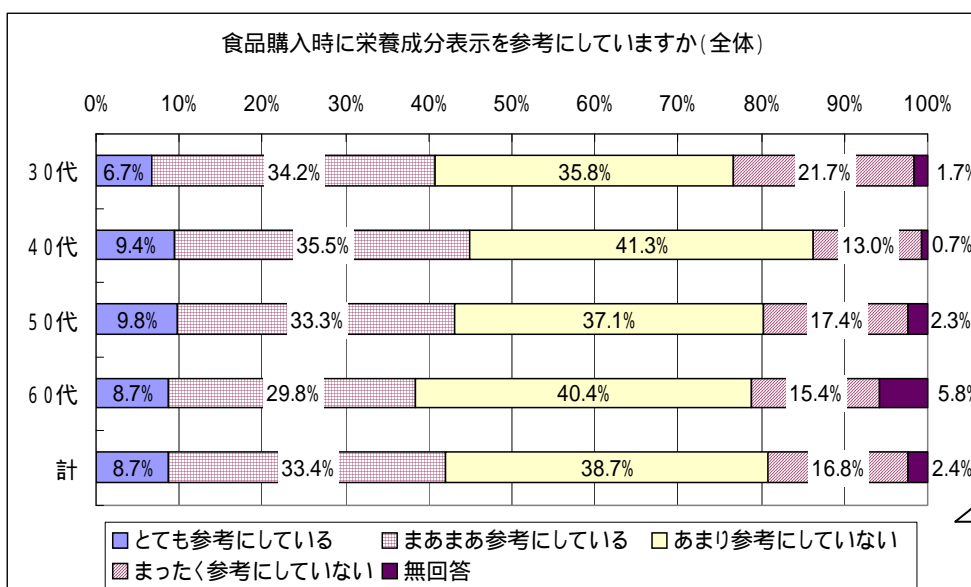


食品の安全性に関する基礎的知識を持っている人の状況

食品を買う時に栄養成分表示（カロリー等）を参考にしている人

県の現状値（H17）	町の現状値（H19）
37.5%	42.1%（男性31.2%・女性51.9%）

（平成19年度大和町健康意識調査結果より）



国（H19）
 男性：18%
 女性：40.4%
 県（H17）
 37.5%

とても・まあまあ参考にしている42.1%

「とても参考にしている」、「まあまあ参考にしている」と答えた人は42.1%であり参考にしていない人が55.5%と多い。

年代別では、「とても・まあまあ参考にしている」と答えた人は40代が44.9%と最も高く、ついで50代%、30代、60代である。

「とても・まあまあ参考にしている」と答えた人は男性で31.2%、女性で51.9%と女性が参考にしている人は5割を超えている。

性別と年齢で見ると、最も多かったのは、50代女性で56.5%、40代女性で52.7%。最も少なかったのは60代男性で25%、50代男性で28.5%である。

消費生活養成講座修了生数

年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
受講生(延べ)	136名	143名	125名	167名	207名	200名	140名

視点5 多様な機関の連携、協力による食育運動の推進

重点項目：食育運動の推進



食育運動・食育ボランティアの状況

食育に関心がある人の割合（アンケート結果より）

国の現状値（H19）	町の現状値（H19）
69.5%	67.4%（男性57.7%・女性76.2%）

全体的にみても、「関心がある」・「どちらかといえば関心がある」と答えた人が67.4%であり、年代別で見ると、関心がある割合が最も多いのが50代で70.5%、ついで60代で68.3%、40代66%、30代65%となっている。

また、男女で比べると、男性57.7%、女性76.2%と女性の関心が高く、年代別にみると、50代女性81.1%、60代女性76.8%、40代女性75.7%である。

「食育」という言葉を知っている人の割合

全体で見ると、64.5%の人が「よく知っている」・「まあまあ知っている」と答えていた。年代別で見ると、30代では67.5%、40代では66.7%、50代では62.8%、60代では60.5%と年代が低いほど知っている人が多かった。

大和町食生活改善推進員の状況

大和町食生活改善推進員数

年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
人数	100名	111名	96名	82名

食生活改善推進員養成講座の開催

年度	平成14年度	平成17年度	平成20年度
人数	16名	24名	8名

大和町の5地区全地区に食生活改善推進員がおり活動しているが、行政区単位となると町内59行政区のうち、食生活改善推進員は35行政区にあり活動している。活動の充実のためにも、食生活改善推進員がいない24行政区に呼びかけ充足を図っていく必要がある。

また、現在食育ボランティアは食生活改善推進員のみで活動しているが、今後は様々な立場の方が食育を推進していくことが必要である。

食育ボランティアとは

地域における食育を地域の実情に応じた活動を展開することにより推進し、食への関心を喚起して、食の安全な選び方、組み合わせ方を判断する力と習慣の習得を促すことにより、健全で安心できる食生活の実践を促進するためのボランティアです。